

開会挨拶

上田：それでは始めたいと思います。アジア地域研究所で文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、「21世紀海域学の創成」というプロジェクトを進めております。今回は、プロジェクトの最終年度である15年度初回のシンポジウムということになります。

このプロジェクトですが、立教大学に外邦図という1940年代に日本の軍が作成した東南アジアを中心とする地図が非常に多く収蔵されております。その保存の活用ということで、それを列挙して進めてまいりました。多くの研究分担者の協力を得まして非常に内容豊かなプロジェクトとして今進行中です。その中では観光・文化・政治・歴史という4つのチームを組みまして、それぞれの研究の視覚から東南アジア、南シナ海、インド洋、そして太平洋、ミクロネシアなどの海域世界というものを対象に研究し、現地での調査を続けておりました。今回は主に歴史学チームを中心としまして、「近世から近現代にいたる海域世界の社会統合—外来系住民と現地社会」というタイトルを銘打ってシンポジウムを行いたいというふうに思います。

それでは早速ですけれども、このプロジェクトの企画運営を行いました本学文学部の教授である、そして同時にアジア地域研究所の所員である弘末さんのほうから主旨説明をお願いしたいと思います。

弘末：おはようございます。立教大学文学部の弘末でございます。本日のシンポジウムの趣旨を簡単に説明させていただきたいと思います（資料）。本日の「海域世界の社会統合」という題目は、海域世界の拠点となります港市の社会統合というものを考えてみたい意図から来ております。港市には外からやって来る人々や地元の人々が居住しているわけですが、外来者に対し、港町はそれを受け入れるシステムを有しております。近世から近現代にいたる時期にどのようなシステムが展開したのか、具体的には来訪者を、どのような人々が現地社会や他地域出身者に仲介したのかを焦点に据えまして、そこでなされた社会統合を検討してみたいというのが一つの大きな柱でございます。

資料 シンポジウム趣旨説明

1. 海域世界（港市）の社会統合

外来者を受け入れるシステム：仲介者の存在

コスモポリス化する港市 → いかなる社会統合が希求されるのか？

Cf. 広域世界原理

A 出身地や外部世界とのネットワーク形成、海域世界の秩序形成

B 地元社会の秩序形成：港市は外部世界への窓口であり、地域の結節点となる。
少数派の外来系住民は、地元社会の秩序形成に敏感にならざるをえない。

どのような人々が関わり、いかなる原理が掲げられたのか？

2. 近代国際秩序との相克

こうした都市で、どのような思想や活動が展開するのか？

Cf. 神智学、社会主義、民族主義、カルト宗教etc.

→ 「21世紀海域学の創成」に向けて

こうした港町はいろんな人々を抱えますので、コスモポリス化していきます。そこでは、多様な人々が居住できる広域世界原理とでも申しましょうか、そういう理念がしばしば希求されます。いろんな人々が集ってきますと、それらの人々の間や地元と外部の世界との関係が構築されていきます。そうしたなかで、港町周辺の海城世界というものが形成されていくかと思えます。

本日の太田先生をはじめ吉原先生、栗田先生、重松先生のご報告は、こうしたそれぞれの世界のネットワークをつなぐ人々がどういう存在なのか。またそうした人が入って来ることによって、海城世界はどういうふう形成されていくのか、お話をいただけるかと思えます。

また、案外私たちは軽視しがちでありますけれども、そういう外来者は港町で少数派であるために、そこでどういう秩序が形成されるのかということに対して、敏感にならざるを得ません。外来住民が、地元社会の秩序形成にどういうふうに関与していくのか、これは山口さんや豊田先生のテーマとも関係してくることかと思われまふ。海城世界の社会統合に、AとBの観点から具体的にどのような人々が関わり、そのなかでいかなる原理が展開していくのかを考察したいのが、一つの大きな柱でございます。

そしてもう一つは、私ども「21世紀海城学の創成」というプロジェクトの名前を掲げておりますので、現代まで視野に入れて、近現代の都市でいったいどのような思想や活動が展開しているのか、合わせて検討すべき重要な課題となります。過去の歴史をひもといてみますと、私はインドネシア史が専門でありますので、すぐ頭に浮かびますのは、民族主義運動が台頭する前夜の東南アジア島嶼部の都市で、東西諸宗教の融和を説く神智学とか階級闘争を唱える社会主義など、いずれも人種とか出身地にこだわらず、人類規模で妥当する原理が希求された事実であります。そういうような思想が展開していくなかで、インドネシア民族意識が形成され、国民国家を構築する活動が台頭してきました。今日においてもこうした都市では、イスラーム主義とかカルト宗教など、いろんな思想が展開しているかと思えます。そうしたなかで「21世紀の海城学の創成」と関係する、これからの海城秩序というものがどういうふう形成されていくのかを展望するのが、もう一つの柱でございます。以上の2点が、本日のシンポジウムの趣旨でございます。

私自身も4人か5人ぐらいでシンポジウムをやったことはありますが、7人、しかも朝から晩までやるという試みは初めてでございます。長丁場にはなりますけれども、どうぞよろしくお付き合いのほどお願い申し上げます。